
雨色ノイズ

PLN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨色ノイズ

【Zマーク】

Z8083M

【作者名】

P.L.Z

【あらすじ】

変わりたい

変われない。

「このままじゃ駄目」って分かってる。

言われなくとも分かってる。なのに、どうして。

どうしてこんなにも、”今”に固執する自分がいるのだろう。

小野寺 妙が”不登校児”となつてから、早くも8年余りが経っていた。

時々趣味の作曲に精を出しながらも、《周囲に迷惑しかかけない」としていた。

のできない》自分を嫌悪して生きる妙。

そんな妙が出会ったのは、《周囲に必要とされている》自分と同じ年頃の少女・奏多。

そして、《毎日を楽しく生きてこる》ラジオ番組の女性DJ・ミマ。

2つの出会い、2つの恋。

いつしかそれは、妙を大きく変えていく……。

*00 かわおい

春。少年が家のドアを開けると、外はしとしと雨が降っていた。

湿気を多く含んだ雨の口独特の空気は、多くの人間をどこか憂鬱な気分にさせる。しかし、真新しい制服を身に纏つた彼　　彼はいわゆる「高校1年生」だった　　にはそれが当てはまらないようだつた。

濃いグレーの上着に雨が滲むのも気に掛けず、学校へと続く坂道を下つていく。

「時間はまだ、大丈夫だよな……」

少年は腕時計に目を向けた。時計の針は12時46分を差している。今日は学校行事のため、登校は午後だ。決して少年が壮大な寝坊をしているわけではなかった。そして案の定、登校の時間は幾分か余裕があった。

その余裕のある時間をどう過ごすか　　少年は考えを巡らせながら、歩みを再開させた。今日の雨は考え方をするには一度いいBGMだ、と少年は思った。

曲がり角に少年が差し掛かつたとき、ふいに、目前をピンクの傘が横切つた。それは、最初は「あれ?」と意識の片隅にちらつく程度の背景だった。しかし彼の脳裏には、次第になにかこみ上げてくるものがあった。

「まさか　……」

その率に、少年は見覚えがあった。「そんな筈はない」とかぶりを振りながらも、思わず少年は傘を追いかけていた。

水溜まりの水が、勢いよく跳ねて飛び散る。

雨は次第に強くなり、傘を差していても服がびしょ濡れになつた。さすがの少年もこれにはやれ、と、普段なら溜息の一つも漏らしたくなるところだが、今はそれさえも一の次である。

生憎、ピンクの傘は急いでいるようだつた。少年が追いかけても、中々その距離が縮まらない。時に少年は運動というものがからつきし駄目だった。心底自分の体力のなさを呪う。

下り坂も終わりにさしかかるうといつ時、ピンクの傘がはた、と止まる。踏切の遮断機が下りたのだ。これはチャンスとばかりに少年の走る速度もグンと上がる。

が、唐突に傍らの路地から透明なビニール傘を差した、同じ高校の制服を着た少女が少年の視界を遮つた。

「わあ、グッドタイミング。陽子ちゃんが走つてくるの見えたよお

間延びした声に、ピンクの傘が振り向く。

「私、遅れちゃつたと思って。こんな雨で待たせるの悪いと思って……わっ、制服びしょびしょ」

「うわ、すごい濡れ方。派手にやつたねえ」

振り向いた少女の顔は、『彼女』の顔とは違つた。少年の中で、急に気分が萎んでいくのが分かつた。

「そつか……、そんな訳、ないよ、な……」

脱力して、少女たちが楽しげに歩いていくのを見送る。脱力してはいるものの、不思議と少年は、人違いであったことを悲しいとは思つていなかつた。

懐かしい『彼女』の言葉が、ふいに少年の耳に蘇る。

“逃げてもいい。　逃げてもいいけど、いつかは向き合わなきやならない時が来る。忘れないで”

聞いたその時には、その言葉の意味が少年には分からなかつた。陳腐で偽善的だ、なんて当時ひねくれていた彼はそう思つたものだつた。

でも、今ならその意味が分かる。
何故だか、そう思つた。

「俺は、逃げない」

その咳きは、まるで溜息のよつだつた。強い雨音で消えそつた、本当に、本当に小さな咳きだつた。
けれど確かに、それには確固たる少年の意志が宿つていた。
雨は以前、止む気配はなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8083m/>

雨色ノイズ

2011年1月9日03時30分発行